

風待ち まちなか美術館

風待ち地区にある国登録有形文化財。

今回は、そのうち4棟の文化財建物で、普段の風景に溶け込みながら、「我が家の逸品」を展示しています。

芸術の秋、のんびりと歩きながら、風待ち地区に期間限定で開催される、小さな「まちなか美術館」を、ごゆっくりとお楽しみください。



◆三事堂ささ木
『潮の画人 本田鼎雪』
開 館:9:00~17:00(最終入館16:30)
※日曜休館
会 場:三事堂ささ木 一階店舗
お問合せ:三事堂ささ木(0226-22-0054)

気仙沼出身の日本画家、本田鼎雪(1910~1982)は、主に東北で画業を展開。数々の美術展で入選し、後進の指導も行いました。鯉など水産物の画がたくさんあり、静岡・高知・鹿児島でも展覧会が開かれるなどしています。

鼎雪さんは、すぐそばにあった本田家の二階で絵を描いていました

◆武山米店店舗
『炊飯博物館&秀ノ山雷五郎展』
開 館:9:00~17:00(最終入館16:30)
※日曜休館
会 場:武山米店 石蔵・店内
お問合せ:武山米店(0226-22-0266)

第9代横綱・秀ノ山 雷五郎(1808~1862)は、仙台藩(現気仙沼市)出身の元大相撲力士。三陸復興国立公園の最南端の岩井崎には、東日本大震災の大津波にも耐えた彼の銅像が立ち、皆に勇気と希望を与えています。

実物大のお相撲さんに会えるかも?!

◆角星店舗
『写真に見る風待ちの風景』
開 館:9:00~17:00(最終入館16:30)
※土・日曜日休館
会 場:角星 2階ギャラリー
お問合せ:角星(0226-22-0007)

国内外の風景や動植物などを撮影し続けてきた写真家・かとうまさゆき氏の写真展。新聞紙上に作品を発表する中で、30年ほど前から気仙沼の自然や港町の情景も撮影しています。

海を眺めながら懐かしい風景に出会えます

◆小野健商店土蔵『古伊万里展』
開 館:13:00~16:00(最終入館15:30)
※土・日曜日休館
会 場:小野健商店土蔵 ※事務所受付必要
お問合せ:小野健商店(0226-22-3134)

江戸時代に佐賀・長崎県で焼かれた磁器は、伊万里の港から各地へ運ばれ、「伊万里焼」と呼ばれました。青絵や赤絵の大皿、徳利、長皿、壺などの優品が揃い圧巻です。

再建された重厚な土蔵のなかで貴重な作品を堪能!!

早見表

| | 開催期間 | 開催時間 | 休館 |
|---------|---------------------|----------------------------|------|
| 三事堂ささ木 | 10月29日(月)~11月10日(土) | 9:00~17:00 (最終入館16:30) | 日曜 |
| 武山米店店舗 | 10月29日(月)~11月10日(土) | 9:00~17:00 (最終入館16:30) | 日曜 |
| 角星店舗 | 10月29日(月)~11月9日(金) | 9:00~17:00 (最終入館16:30) | 土・日曜 |
| 小野健商店土蔵 | 10月29日(月)~11月9日(金) | 13:00~16:00 (最終入館15:30) | 土・日曜 |

期間後も引き続き展示を続けている店舗がありますので各店舗へお問い合わせください。

◆小野健商店土蔵・修復完了
魚問屋さんならではの、漁業の歴史紹介や、昔の道具などを展示しています。(随時解放、期間限定展示もあり)

- ◆昭和初期の建物(被災し滅失した建物もあります)
- ◆風待ち研究会が調査した建物(気仙沼風待ち復興検討会の前身)
- ◆被災し滅失した建物

小野健商店土蔵・修復完了

昭和大火後の土蔵です。伝統的な土蔵建築で、海鼠壁や鏝絵などの凝った造りがみられます。現在地での創業は大正5年。魚問屋でマグロの仲買をしていました。明治時代は魚町にあったといえます。屋号はマルヤマコで、先代の小野寺健之助さんの頭文字をいただき店名にしたといえます。

震災では外壁がはがれ、装飾が破損するなどの大きな被害を受けました。SOC基金により、応急の壁工事が行われました。平成29年6月に修復が完了しました。



武山米店店舗・平成30年4月再建

昭和大火後の米店兼住宅です。町家のように、表に銅板を貼り装飾的な造りにしています。実はこの家の敷地は扇形。敷地にあわせてとても凝った造りになっています。創業は明治中期。大正・昭和の大火に遭遇しましたが、引き続きこの地で米穀商を営んでいます。初代が結婚記念で購入したという精工舎製(現SEKO)の柱時計は震災で被災しましたが、修理して新店舗(市内の河原田)で時を刻んでいるそうです。屋号は「ヤマゴ」。

震災では一階部分が津波で大きくさらわれました。SOC基金等により応急の補強工事が行われ、平成30年4月に再建しました。



三事堂ささ木店舗・修復完了

大正期の陶器店兼住宅、土蔵です。数少ない昭和大火前の建物になります。土蔵と洋風建築を並べた和洋折衷のデザインが特徴です。創業は明治41年。商売の創業は先々代の佐々木三治(事)さんです。山に「ニ」でヤマニの屋号は、さらに上を目指す意で、三治さんの「三」を山に見立て、その中に「ニ」を入れて、掛けてあるとのこと。

震災で外部の海鼠壁や内部に被害を受けました。平成29年6月に修復が完了しました。



角星店舗・平成28年11月再建

昭和大火後の酒店です。魚町の屋号通りに面し、歴史的町並みを形成していました。伝統的な塗り家造りとなっています。この家も敷地が平行四辺形と不整形なのですが、海側に正面を向けるため、瓦や腕木に角度をつけています。創業は明治38年。創業時、折壁室根神社に清酒を枡に入れて献上したところ、明けの明星が御神鏡にうつり、その光が献上の酒に丸やかに輝き、屋号を角星と決めたそうです。銘柄は、陸中、陸前(の両国)にまたがっての酒屋であるため「両国」としたそうです。

震災で一階部分が流され、二階も敷地の奥に流されました。SOC基金により、応急的に元の位置に曳き家して戻し、一度解体してから平成28年11月に再建しました。



男山本店店舗

昭和大火後の酒店です。魚町の屋号通りに面し、歴史的町並みを形成していました。三階建ての古典様式調の建築です。沖の漁船から目立つパラベットの装飾と「男山」の屋号が印象的です。創業は1912年。小売り時代に塩竈阿部勘の「男山」を販売しており、自家清酒も「男山」「伏見正宗」としたそうです。

震災で漁船が衝突したようで、一、二階が破損し、三階だけが瓦礫の上に残されました。その様子は、震災の象徴として多くのメディアにも取り上げられたようです。SOC基金により、応急的にもとの位置に戻し、養生しました。現在は丁寧に解体し、保管しています。



再建中

千田家住宅

主屋は昭和大火の後に建てられました。附属する土蔵と土蔵は大火を乗り越えた建物です。角地に建ち、交差点に対して大きくカーブを描いた壁面が特徴です。2階には丸窓が付き、さらに煙突のような出窓が2階から3階パラベット上まで延び、船のイメージを漂わせています。角地を意識したデザイン、船のモチーフは、昭和初期の近代建築によくみられたものです。建物を建てたのは「富貞商店」といい、大正から昭和にかけて建設資材問屋を営んでいたそうです。戦前に千田家が所有し、縄やロープの製造販売、タクシーなどを営み、近年はテナントに利用されていました。屋号は「胆沢屋」。

震災で津波が2階まで浸水し内外に大きな被害を受けました。SOC基金等により応急修理を施した後、再建に向けた実測調査が完了し、設計に向けて検討中です。



再建中

テナント募集中心!!



風待ち修復協力金のお願い
一あと2棟「男山本店店舗」
「千田家住宅」の資金がまだまだ足りませんー

ぜひこれらの歴史的建造物の保存・活用の社会的意義をご理解いただき、さらなるご支援をいただけますよう、なにぞ、よろしくお願いいたします。

【お振込み】

七十七銀行 気仙沼支店

普通預金5497477

一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会

問い合わせ先

一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会

気仙沼市教育委員会生涯学習課 0226-22-3442

風待ち まちなか 美術館

平成30年10月29日(月)～11月10日(土)

*店舗により開催期間が若干異なりますので、裏面でご確認ください。

*期間後も展示を続けている店舗がありますので、各店舗へお問い合わせください。

第48回気仙沼市民文化祭参加種目
文化庁「文化遺産総合活用推進事業」

*「SOC」(東日本大震災被災文化財復旧支援事業、Save Our Culture)は、東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、被災地域主導での復旧活動を広く国内外に支援を訴えるキャンペーンです。文化財保護・芸術研究助成財団とワールド・モニュメント財団が連携し、文化庁の協力を得て実施されています。